

3. 参加者との意見交換

【安芸市の観光の取り組み・課題と高速道路割引再開の要望について】

A： 私は、観光の取り組みとしまして、安芸市の活性化に関わっている活動について報告したいと思います。

「はばたけ弥太郎・龍馬伝」安芸市推進委員会は、昨年放映されました「龍馬伝」を契機に、安芸をこじんと元気にするために平成22年に発足しました。活動のひとつとして、「安芸・岩崎弥太郎ころざし社中」の運営にもボランティアで関わってきました。今年度は昨年同様、観光情報センターとしてリニューアルされた館の案内、各種イベントの協力など観光振興に関わっています。また、私自身、安芸市観光ボランティアガイドとしても活動しており、龍馬ふるさと博推進協議会の偉人伝部会にも所属しています。

そのような活動の中での課題です。安芸市立歴史民俗資料館入館者の比較をすると、平成22年は龍馬伝の放映ですので、ここは別として、平成21年と23年を比較すると、1月から5月までの入館者の数字が平成23年の入館者は21年に比べ約1.5倍あり、非常に健闘しています。しかし今年の3月から5月までの土日祝祭日の入込客の各館の比較をすると、弥太郎の生家は1万1643名の観光客が来ておりますが、歴史民俗資料館はその11%、そして安芸観光情報センター（元安芸・岩崎弥太郎ころざし社中）はその約17%となっており、弥太郎生家から各施設へのいざないがまだまだというところがあります。歴史民俗資料館は、唯一、安芸市にお金が落ちるところですが、まだまだ伸びしろがあります。

そこで、生家から歴史民俗資料館、情報センターへのいざないを強化していくことが課題として出てきます。そこで、その課題を踏まえ、地域を巻き込んだ取り組みについて、4つまとめてみました。

まず、1つ目が、関連機関との連携を深めながら各拠点施設へのいざないを積極的に進めるということ。安芸市観光協会が核となって連絡協議会などを現在、計画中です。

2つ目が、市民の方々に観光情報センターに来てもらい、市民をファンにし、皆を巻き込みたいと考えています。

3つ目が、安芸市には約2千名を超える小中高校生が勉学に励んでいます。彼らに地元の良さを体感してもらい、将来、大学とか就職などで県外に出ていった時に、地元を自慢してもらい、地域おこしにつなげていきたいということ。

4つ目が、観光の大きな楽しみの一つに、ご当地グルメに出会うことがあります。「釜揚げちりめん丼」をB級グルメの代表格として、全国区としていきたいと思っています。これは、産業振興につながっていくと思います。

そこで、お願いが2つあります。1つ目が、高知県東部東海岸周遊バスへの乗車です。これで巡っていただき、安芸のファンになっていただきたいと思います。地元ならではの良さを満喫できる周遊バスになっております。2つ目が、安芸の観光客は75%がマイカ

一で、そして6割以上の方が、四国・中国・関西地方からとなっています。6月19日で終了する高速道路の休日上限千円割引の再開の要望をお願いしたいと思います。

知事： 「はばたけ弥太郎・龍馬伝」安芸市推進委員会も、大河ドラマにあわせてお客さん呼び込んだりする中で、安芸市ぐらい一挙に全国区になったところはないのではないかと思います。本当に素晴らしいことだと思います。

20万人近く生家に来られて、ころざし社中のほうも10万人を突破されたということで、観光エージェントとかに、安芸市は名前が通っており、皆様方のご尽力の賜物ではないかと思います。

NHK大河ドラマ「功名が辻」の時は、放送前と放送中、放送後で観光客数を見た時に、放送後がガタンと落ち込んでいるわけです。いわゆる大河ドラマが終わった後の反動減。今回、これを何とか防ぎたいということで、翌年も敢えて、「志国龍馬 高知ふるさと博」をイベントとして打って、こちらからの発信力を強めていくということでの対応を図ろうとしてきているところです。

今のところのデータでいけば、東日本大震災で自粛ムードは吹いてはいますが、例えば、ゴールデンウィークでの数字は、前年に比べて8%減、前々年に比べると17%プラスでした。全体としていけば、一昨年よりも上にいく状況を作り出して、一段上のレベルにいったという状況を何とか作りだしていきたいということです。

東日本大震災の自粛ムードは、東北地方からも「自粛は是非やめてもらいたい。西日本の元気を東日本に届けてもらいたい。」ということをおっしゃっていますので、この5月くらいから、観光PRの再開を西日本のほうから始め、東日本にも拡大していくようにしていきます。

特に、7月9日、駅前に「幕末志士社中」がオープンすることになります。あの建物の一番の機能は、中にそれぞれの偉人を紹介するコーナーがあって、その偉人ゆかりのいろいろな当地をPRしていくという機能付きのパビリオンです。

隣の「とさてらす」とセットにして、多くのお客様に建物に入っただき、県内の観光地の情報がたっぷり頭の中に詰まっていくことをねらった施設ということになります。県内各地に観光客を送り出す中央部のモーターが、間もなく稼働するという状況になるわけですから、この安芸市を含め、中芸地域、もっと言えば室戸とか東洋町といったところまで含めてPRをしていかなければならないと思います。

そういう中で、お話がありました周遊バスについても、乗られた方の評判が大変良いと伺いますので、こちらもしっかりPRしていくようにしたいと思います。

この東部地域の強みは、巨大な偉人が2人いるということだと思います。岩崎弥太郎、中岡慎太郎、この2人は、いまや全国区のスターですから、しっかりパビリオンなども含めて売り込みしていきたいと思います。

もっと言えば、安芸市の場合は、岩崎弥太郎という強力な武器から周遊させていくことが課題かと思いますが、その周遊させていく、点から線にしていく、線から面にしていくためのいろいろな観光の商品というのが組めないといけないんだろうと思いますが、今、安芸や中芸で、それぞれ広域的な連絡協議会を持たれて、4定条件（定量・定質・定価・定時）を満たし、観光商品化して発信していこうとされていると思います。

このふるさと博の間、県も徹底してPRしていきますが、その博覧会が終わった後で、自立的に回っていけるような体制をこの1年で何とか組めていければと思っているところです。

また高速千円の関係ですが、やはり、東日本大震災のために財源を確保しないとイケないということもあって、厳しいところもあると思っています。

「8の字ネットワーク」をつくるとかいう話になってくると、東日本大震災でも防災機能を発揮したということもあって、非常に好意的な雰囲気になるんですけど、この料金の話になると、難しい感じになってくるんです。

全体として、この流れを元に戻すのは厳しいかもしれませんが、特にポイントとなる所、本四連絡橋の料金の復活は成し遂げたいなと思っているところです。

今のままだと千円、2千円で来れたのが、5千円とか6千円になるわけです。これが3千円、3千200円くらいだったら、そんなにハードルも高くないかもしれません。いかに、本四連絡橋の部分での料金を下げることで、四国と四国島外との格差を小さくするか。ここは是非実現したいと思っているところです。

この話は利便増進事業という枠の中でやっているのですが、その事業で必要なトータルの財源というのは、数百億円くらいかかるんですが、この本四連絡橋の普通車上限千円だけでみれば、10億円でできるので、全体の財源の中で比較的規模が小さくて、経済効果としてもたらず部分というのは、数百億円に上ると試算もされるわけで、いかに東日本に向けて財源を捻出しなくてはいけないとしても、西日本の元気を失わせるようなことをしてはいけない。絆を失わせるようなことをしてはいけないので、この10億円相当でできる部分について、何とか復活できないかということをお願いしていきたいと思っています。

この間の四国知事会で、4県の知事で合意をしました。今後、県外に向け、国会や中央の政府に対して、四国で団結して訴えていきたいと思っています。